

平成20年度予算まとまる

赤字予算編成のため、 健全な財政運営に努めてまいります

3月6日に開催された第86回組合会において、
平成20年度予算が可決・承認されましたのでお知らせいたします

平成20年度収支予算概要

健康保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,565,092
健保組合が互いに出し合って助け合うお金(調整保険料)	34,361
繰入金	228,781
繰越金	186,418
その他	54,583
合 計	3,069,235

■支出

科 目	予算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに健保組合が負担する保険給付費	1,357,611
高齢者の医療に使われる納付金	1,427,706
健康づくりに使われるお金	127,806
健保組合が互いに助け合うための拠出金	34,361
その他	71,751
いざというときのための予備費	50,000
合 計	3,069,235

介護保険

■収入

科 目	予算額(千円)
介護保険料	182,841
繰越金等	19,001
合 計	201,842

■支出

科 目	予算額(千円)
介護納付金	192,343
積立金等	9,499
合 計	201,842

新たな高齢者医療制度、 健診などがスタート

平成20年度は18年度から始まった医療制度改革の総仕上げの年となります。今年度は75歳以上の高齢者を対象とした新しい高齢者医療制度の創設、40歳以上の被保険者・被扶養者を対象とした特定健診・特定保健指導の実施などが行われ、これにともない当健保組合の予算編成においても、この医療制度改革が大きな影響を与える結果となりました。予算総額は前年度に比べ2億9、486万円増加の30億6、923万円を計上、経常収支では3億9、551万円の赤字を見込んでいます。

高齢者医療費への負担は 保険給付費よりも多い

収入の柱となるのが、みなさんと事業主から納めてい

ただく保険料収入で、25億6、509万円となり、前年度より1、717万円の増加となっています。

支出においては、みなさんのけがや病気の医療費、出産などの給付金に使われる保険給付費が同比2、622万円増加の13億5、761万円となりました。

納付金は、前年度までは拠出金と呼ばれていたものが、今年度から納付金と名を変えたものですが、現役世代から高齢者医療費への支援としてあてられる費用のことで、納付金額は14億2、770万円となり、前年度の拠出金額11億7、240万円に比べ2億5、530万円も増えています。

これまで健保組合財政の大きな負担となっていた拠出金はなくなっただけで、現役世代から高齢者への医療費負担は形を変えて継続されており、さらには、今年度の納付金額と前年度の拠出金額を比べてみてもわかるよう

被保険者 1 人当たりでみた 収支予算 (健康保険)

収入合計 ● 495,038 円

健保組合が互いに出し合って助け合う
お金 (調整保険料) 5,542円

繰入金 36,900円

繰越金 30,067円

その他 8,804円

収入

みなさんと事業主から
納められる保険料
413,725円

健康づくりに使われるお金 20,614円

健保組合が互いに助け合うための
拠出金 5,542円

その他 11,572円

いざというときのための
予備費 8,065円

支出

病気やけがやお産を
したときに健保組合が
負担する保険給付費
218,970円

高齢者の医療に使われる納付金
230,275円

支出合計 ● 495,038 円



健全な健保組合財政をめざし、 運営を行ってまいります

以上の結果、今年度は納付金への大幅な負担増等により、保険料等の収入だけでは支出をまかなえないことから、前年度繰越金を1億8、641万円、別途積立金よ

に、健保組合における負担はより重くなっています。また、今年度の保険給付費と比較してみても、納付金額が上回るという異常な事態となっており、健保組合運営にとって依然としてたいへん大きな負担であることに変わりありません。

このほか、健保組合の重要な事業である保健事業費を同比724万円増加の1億2、780万円と見込んでいます。今年度から始まる特定健診・特定保健指導の費用にあてるほか、保養所利用への補助などにあて、みなさんの健康づくりをバックアップいたします。

4月給与分から 介護保険料率に変更に

今年度、当健保組合が国に収める介護納付金は1億9、234万円です。これを基に介護保険料率を算出した結果、前年度の1000分の11・2から、1000分の10・7に変更することになりました。負担割合は事業主・被保険者の折半となります。

り2億2、878万円を繰り入れることで、収支のバランスをとるという厳しい予算編成となりました。このような状況ではありますが、当健保組合としましては、みなさんから納めていただく保険料をむだにすることのないよう、健全な財政運営に努め、健保組合本来の事業であるみなさんの健康づくりに重点を置いた事業を積極的に行ってまいります。どうかみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。